

## 第3章 子どもの読書の現状と課題

### 1 家庭・地域

田原本町においては、子育てサークル、子ども会、PTA、ボーイスカウトなどの諸団体があり、様々な形で子どもの活動を支援している。ボランティアによるおはなし会も、いろいろな施設で開催されているが、人材不足は否めない。

保健センターでは、乳児期前半から絵本を通して楽しい親子の時間が過ごせるよう育児支援を行っている。4ヶ月児健診の際には絵本の紹介をボランティアが行い、1人ずつ絵本を手渡している。(ブックスタート事業) また、民生児童委員による就学前の幼児を対象にした幼児教室も開催されている。

公民館においても、子どもが地域社会にかかわりを持ち、読書活動への興味が多方面に及ぶように、生活作文発表会、親子で星を見る会、科学教室、野外活動などの事業や家庭教育学級への支援も行っている。

家庭においては、子どもたちの年齢が上がるにしたがって、勉学や読書以外の趣味、遊び、習い事などに費やす時間が増え、読書の時間が取りにくくなってきており、子どもの読書活動の推進に繋がるための努力は、今後も一層望まれるところである。

### 2 幼稚園・保育所(園)

幼稚園・保育所(園)では、年齢に応じた読み聞かせやおはなしが日常的に行われている。子どもたちは、教師や保育士が読んでくれる絵本を通して、想像力を膨らませ、言葉を理解し、表現力を身につけ、豊かな心を育んでいく。

各園の蔵書数は、在籍している子どもの人数により様々であるが、保育室への絵本の設置など、子どもがいつでも絵本を手にとって楽しめる環境を整えている。毎月、園が選んだ絵本を保護者に購入してもらい、家庭へ持ち帰らせ、保護者と共に読書を楽しむことができるように配慮をしている。

幼稚園では、絵本の部屋を設け、貸出も行っている。また、図書館へ見学に出かけ、おはなしを聞いたり、本を借りたりして、読書活動の推進を図っている。しかし、保護者の絵本に対する関心はあまり高いとは言えず、一層の啓発が必要である。